

平成19年度子どもホタルレンジャーの表彰について

1. 受賞団体

平成19年6月29日～平成20年1月21日の間、募集を行い、全国から49団体（小学校の部21団体、中学校の部8団体、団体の部20団体）の応募がありました。審査委員会の審査結果を踏まえ、以下のとおり、環境大臣賞2団体、優秀賞3団体、特別賞2団体を決定しました。

- 環境大臣賞 小学校の部 福島市立土湯つちゆ小学校土湯つちゆっ子ホタル見守り隊（福島県）
箱島はこしま子どもホタルレンジャーの会（群馬県）
- 優秀賞 小学校の部 松山市立河野こうの小学校（愛媛県）
〃 刈谷市立小垣江おがきえひがし東小学校第3学年「とべ！ぼくらのホタル」（愛知県）
- 中学校の部 水戸市立国田くにた中学校生物研究部（茨城県）
- 特別賞 小学校の部 上田市立清明せいめい小学校6年1組メニースターボタル（長野県）
中学校の部 津木つぎ中学校総合学習ゲンジボタル研究班（和歌山県）

【受賞団体の審査概要】

環境大臣賞

応募のあった活動レポートの中から、部門ごとに特に優秀な作品（団体）

◎環境大臣賞 小学校の部

土湯つちゆっ子ホタル見守り隊（福島市立土湯小学校）
「足湯に入りながら、美しい光を眺めたい。～30年前の光をもう一度～」
（福島県福島市土湯温泉町、7名、小学5・6年生）

「なぜ、ホタルが土湯からいなくなったのだろう」という子どもたちの疑問から、地域の方にインタビューしてホタルマップの作成や川の水質調査を実施。また、学校の池を利用したビオトープ（生物生息空間）作りや、雨水を利用した給食の牛乳パックの洗浄、地域の方とホタルまんじゅうを作った。知識と行動が一致した多彩でユニークな活動が高く評価された。

◎環境大臣賞 中学校の部

箱島はこしま子どもホタルレンジャーの会
「ホタルと人が暮らす自然を守ろう！」
（群馬県吾妻郡東吾妻町、32人、小学1年生～5年生）

ホタルの里で、箱島ホタル保護の会が「ホタルを大切に子どもを育てよう」と声をかけて発足。毎月1回学習会を開催し、ホタルや川のこと、箱島の自然、文化などについて学んでいる。また、源流から合流点まで歩いての観察や川遊び、クロマドボタルの観察等を行った。子どもたちの発見、楽しさが伝わるレポートであったこと、地域との交流を中心に活動が展開されたことが評価された。

優秀賞

応募のあった活動レポートの中から、部門ごとに環境大臣賞まで至らないが優秀な作品（団体）

◎優秀賞 小学校の部

^{こうの}
松山市立河野小学校 4年
「とべ！ぼくらのホタル」
(愛媛県松山市、61人、小学4年生)

恵まれた環境を活用し、川や生物を丹念に調査している。また、下水処理場の見学やテレビ番組の視聴を通して、ホタルの棲む川の水環境について深く考えたこと、全校生徒や地域の人に「川を汚さないために油を流さないで！」などと呼びかけた活動を行った。
子どもたちが丹念に調査し、地域にPRする活発な行動が評価された。

◎優秀賞 小学校の部

^{おがきえひがし}
刈谷市立小垣江東小学校 第3学年「とべ！ぼくらのホタル」
「とべ！ぼくらのホタル」
(愛知県刈谷市、44人、小学3年生)

地域の方の協力も得て、校内のザリガニ池をホタルの住める池に作り変え、ホタルの幼虫を放流。その後、産卵、孵化、幼虫まで自分たちで飼育をしている。
子どもたちのユニークな発想や、目標に向かって自主的に活動している点が評価された。

◎優秀賞 中学校の部

^{くにた}
水戸市立国田中学校 生物研究部
「ホタルの里国田」の再生を目指して～ホタルから環境を考える～
(茨城県水戸市、5人、中学2年・3年生)

ホタルの生育条件と生存率の調査に加え、街路灯の光がホタルの生育にどのように影響するかも調べている。また、生物研究部の活動から、国田小・中学校の児童生徒全員に、ホタルの飼育を通じた保護活動を広げ、地域の人たちもホタル生息地の整備などの活動に取り組んだ。
36年間継続していることや、地域と連携して行われる独創的な活動が評価された。

特別賞

応募のあった活動レポートの中から、これまで環境大臣賞の受賞歴がある団体で、優秀な作品と認められる団体（今回初めて設定）

◎特別賞 小学校の部

^{せいめい}
上田市立清明小学校 6年1組メニースターボタル
「矢出沢川をホタルがたくさん飛ぶ川にしたい」
(長野県上田市、35人、小学6年生)

平成17年度に環境大臣賞受賞、平成18年度に優秀賞受賞。これまでのホタルの保護活動を引継ぎ、カワニナを増やす方法について、話し合いや実験・観察を行っている。また、植物とカワニナ、カワニナとホタルという動植物に関わりや自然界のつながりについての見方や考え方を深めるとともに、地域の方との交流を行っている。
子どもたちが問題意識を持って、独創的な観察・実験を行っていることや、地域に活動を広めていく自主的な行動力が評価された。

◎特別賞 中学校の部

つぎ
津木中学校 総合学習ゲンジボタル研究班

「ホタルを支える生態系の解明」

(和歌山県有田郡広川町、22人、中学1年生～中学3年生)

平成16年度に優秀賞、平成18年度に大臣賞受賞。19年間にわたり、飼育・保護活動を継続し、様々な実験を通して理解を深めている。また、増水時におけるカワニナの避難行動、けい藻の調査等を実施するとともに、ポスター、しおり配付等地域へ普及啓発を展開している。

常に新たな発想を持ち、ホタルを通じた様々な観察力や着眼点を持って実践していることや、研究成果をあげるとともに地域に発信していることが評価された。

2. 表彰式・活動報告会

平成20年3月26日(水)14時30分より、共用第7会議室(中央合同庁舎5号館5階)において、各賞の表彰式及び活動報告会を行いました。



子どもたち全員と大臣の記念撮影(上)

環境大臣賞受賞団体と大臣の記念撮影(下)



土湯小学校(福島県)



箱島こどもホタルレンジャーの会(群馬県)

活動報告会の様子

環境大臣賞



福島市立土湯小学校(福島県)



箱島こどもホタルレンジャーの会(群馬県)

優秀賞



松山市立河野小学校(愛媛県)



刈谷市立小垣江東小学校(愛知県)



水戸市立国田中学校(茨城県)

特別賞



上田市立清明小学校(長野県)



津木中学校(和歌山県)

こどもホタルレンジャーHP (<http://www.env.go.jp/water/info/hotaranger.html>)